

富山経済同友会

会報

2024. 1月
No. 316



第4回企業経営委員会（県外企業視察）（11月14日）

CONTENTS

- 海外視察報告会・12月会員定例会・懇親会… 2
- 全国代表幹事円卓会議 …… 3
- 第2回ESG経営小委員会 …… 4
- 第1回企画委員会 …… 4
- 第3回企業経営委員会（拡大委員会）…… 5
- 第3回委員長連絡会議 …… 5
- 第4回企業経営委員会（県外視察）…… 6
- 第3回文化スポーツ委員会 …… 8
- 第4回文化スポーツ委員会 …… 8
- 第2回教育問題委員会 …… 9
- 第3回教育問題委員会（第10回海外教育事情視察報告会）… 9
- TOYAMA KATARAI CAFE（人財活躍委員会）…11
- スケッチオーデション（アントレプレナーシップ小委員会）…12
- 課外授業講師派遣 ……13
- 教育講演会等講師派遣 ……16
- リレーエッセイ⑩（池田 治郎 氏）……17
- 活動報告 ……18
- 事務局からのお知らせ ……19
- トピックス（観光ウェブサイト、共生の未来・富山シンポジウム）…20
- 富山景気定点観測アンケート結果 ……21
- 今後の予定 ……21
- わが青春の1枚（川口 秀春 氏）……22

このたびの令和6年能登半島地震により被害を受けられた皆さまに
心からお見舞い申し上げます。

富山でイノベーションを起こすために ～ 海外視察報告会・12月会員定例会 ～

12月4日(月)、令和5年を締めくくる12月会員定例会・年末懇親会を ANA クラウンプラザホテル富山で開催。会員、来賓ら約200名が出席した。定例会前には、海外視察報告会も行った。

◆海外視察報告会

はじめに、第41回海外経済視察〔7月27日(木)～8月3日(木)、オランダ・アイスランド視察〕について、交流委員会の中沖 雄委員長が報告した。今回は、スマート農業等の高付加価値産業、環境エネルギーの先進的な取り組み、ウェルビーイングをテーマに29名が参加した。

オランダでは、ご朱印状と日本との歴史的な繋がりや深さに驚き、日本大使館への訪問や、ICTを活用した水耕栽培のトマトワールドの視察、本物の芸術に触れる美術館巡り、スポーツの臨場感を味わえるサッカースタジアム見学など、多岐にわたるプログラムを実施したことが報告された。

アイスランドは、一人当たり GDP が日本より高く、ジェンダーギャップ指数が14年連続世界1位と女性の社会進出が際立っており、また、世界有数の地熱発電先進国で、国内電力のほぼ100%を再生可能エネルギーで賄っていること等が紹介された。

そして、海拔ゼロメートル地帯の広大な干拓、火山活動を間近に感じる世界自然遺産、地熱を利用した観光施設、夜でも明るい白夜などを間近で見て肌で感じることで、両国の豊かさや自然の威力等に強烈な印象を受けたとして、引き続き海外経済視察に積極的に取り組むと締めくくった。

続いて、第10回海外教育事情視察〔8月29日(火)～9月6日(水)、ドイツ・オース



中沖委員長



海外視察報告会

トリア・デンマーク視察〕について、団長を務めた富山県総合教育センターの宮原 京子研究主事から説明がなされた。ドイツの職業教育の特徴と課題や、デンマークの非競争的な教育について報告があり、最後に「深く学び、思考を続けたこの9日間の経験を人生の糧としてこれからの教育に役立てていきたい」と熱く語った。



宮原研究主事

◆12月会員定例会

報告会に続いて、12月会員定例会（企業経営委員会主管）を開催。株式会社ユーグレナ代表取締役社長 出雲 充氏が「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」と題し講演を行った。

講演の前段で出雲氏はミドリムシとの出会いと起業、そして、何百回ものチャレンジを繰り返しながら大学発ベンチャーを東証一部上場企業にまで育て上げた経緯を語った。



出雲 充氏

後段では、イノベーションを起こすために必要なこととして、「日本では新しいことにチャレンジする人に対し、『前例がない、危ない』などと厳しい目を向けがちだが、繰り返し努力することで必ず奇跡を成し遂げることができる。富山でも、若者に心の底から尊敬できる師匠(メンター)と、夢を持ち続けるためのアイテム(アンカー)の2つが揃えば、若者が何度でも繰り返し挑戦し、イノベーションを起こすことができる」と述べた。そして、「皆様経営者が若者のメンターとなり、若者に夢を持つきっかけと夢を追い続けるためのアンカーを与え応援してほしい」と熱く語り講演を締めくくった。

(講演詳細は、次号3月の会報に掲載予定)

年末懇親会

続いて年末懇親会を開催し、来賓に定例会講師の出雲氏を始め、富山県から新田八朗知事、川津鉄三知事政策局長、南里明日香経営管理部長、中谷仁商工労働部長、富山県市長会から藤井裕久会長（富山市長）をお招きした。

まず、麦野代表幹事が「今年は、ウクライナ侵攻、中東情勢の悪化による資源高が続き、まだまだ先行き不透明ではある



麦野代表幹事



新田知事



藤井市長会会長

が、来年は紛争が収まり、エネルギー安定供給が進み、経済の好循環に繋がって欲しい。同友会活動では、地域を盛り上げていくという使命感を持って、今後も多くの方々に各委員会に参加していただきたい」と開会の挨拶を述べた。続いて来賓を代表して新田知事が挨拶し、藤井市長会会長の発声により、当会では恒例となった地酒で乾杯が行われた。

最後に牧田代表幹事が閉会の挨拶を行い、「本日も講演いただいたユーグレナの出雲社長とお会いするのは、今回で3回目。彼には人を引き付ける魅力があり、これぞアントレプレナーシップの神髄で仲間づくりが大切だということに繋がると思う。本日をもって今年の同友会行事は終了となる。皆様にとって、来年が良い年でありますように祈念申し上げたい」と語り、今年最後の懇親会を締めくくった。



牧田代表幹事

アントレプレナーシップの神髄で仲間づくりが大切だということに繋がると思う。本日をもって今年の同友会行事は終了となる。皆様にとって、来年が良い年でありますように祈念申し上げたい」と語り、今年最後の懇親会を締めくくった。

全国経済同友会セミナーなどをテーマに奈良県で開催

— 全国代表幹事円卓会議 —

2023年度全国経済同友会代表幹事円卓会議が、11月6日(月)に、全国の各地代表幹事をはじめ総勢126名が参加して、奈良県コンベンションセンターで開催された。当会からは麦野代表幹事、牧田代表幹事が参加した。

(公社)経済同友会 新浪剛史代表幹事の開会挨拶の後、開催地である奈良経済同友会の井村守宏代表幹事から歓迎の挨拶があった。

議事では2023年の全国経済同友会セミナー（長崎大会）に係る収支決算案が承認され、また、来年2024年の全国セミナー（福井大会）の企画・予算案、2025年全国セミナー（広島大会）の開催日程及び2030年開催地に立候補した神戸経済同友会での開催が承認された。

その後、各地経済同友会の取組みについて、当会・静岡・関西・神戸・奈良から順次報告された。当会からは牧田代表幹事が、教育問題委員会で平成20年度にスタートさせ本年が最終10回目となった海外教育事情視察の目的や事業概要、教員と経済人が一定期間交流する意義や成果等



について報告した。

来賓講演は奈良文化財研究所平城地区史料研究室長の馬場基氏が『奈良に潜む古代国家のグローバル・ローカル・多様性』と題して講演し、古代の国造りの時代に、国際標準と日本の文化・伝統が対立と融合を繰り返し、それが今日につながる日本の基層文化になっているとし、何を守り、何を伝えるかを考え、「変化」に挑戦した先人の力、対立と融合の様が未来への指針になると説いた。

なお、会議に先立ち、東山魁夷画伯の唐招提寺御影堂障壁画の特別鑑賞、鴻ノ池運動公園に整備する星野リゾート監獄ホテルの工事現場を視察した。

ESG経営で企業価値向上を

—第2回ESG経営小委員会—

第2回ESG経営小委員会(松田光司委員長)を10月25日(水)、オークスカナルパークホテル富山で開催。今回は、「ESG経営」についてあらためて学びを深める“勉強会”と位置付け実施した。講師には、三井住友トラスト・ホールディングス執行役員／三井住友信託銀行(株)執行役員兼ESGソリューション企画推進部長の松本千賀子氏を招き、「ESG経営と企業価値向上」と題してご講演いただいた後、松本氏と参加した委員19名らとでディスカッションを行った。

松本氏は、まず、「なぜESG経営なのか?」として、多様なステークホルダーから企業のESG経営推進の要請が高まっている現状を説明。背景として、“短期の利益最大化を重視する株主資本主義”から“中長期の持続的成長を目指すマルチステークホルダー資本



松本 千賀子 氏

主義”への転換を挙げ、各方面からの要請・規制動向について解説した。



また、松本氏は、ESGの評価・取組が企業価値(財務状況)に与える影響について“相関性”を示したうえで、情報開示にとどまることなく企業戦略に実質的に反映させていくことが重要であると説き、E・S・Gそれぞれにおける具体的な取組事例を紹介した。

松本氏の講演を受け、委員からは、「投資家目線でのESGを巡る現状」、「地場の中小企業におけるガバナンスの取組」、「グローバルなサステナビリティ情報開示規制動向に対する日本の対応」等々について質疑や意見が挙がり、松本氏は丁寧かつ明朗に応答。活発な意見交換を通し、委員一人ひとりがESG経営に関する知見を深めた。

委員会再編のフォローについて議論

—第1回企画委員会—

11月8日(水)、第1回企画委員会を、舟橋村のdadada_で開催し、高林幸裕委員長を含め4名の委員が出席した。

まず、高林委員長から、2023年度委員会再編の概要と上期(7月～9月末)の委員会開催状況や各分野における新たな連携推進の動き等について説明がなされた。



高林委員長

委員長交代による新体制で7月から活動がスタートし、委員会の開催回数は昨年度のほぼ半数だが、昨年度を上回る参加者数で、県・市、大学等との新たな連携もなされており、活発に活動が行われていること、また、会員の委員会

未登録の状況が改善されていること等が紹介された。

その後、他の経済同友会との外部連携からも活動のヒントが得られるという意見や、新旧委員長の間で最小限の引継ぎがなされれば良いなど、活発な意見交換が行われ、こうした意見を盛り込み、常任幹事会において、高林委員長から委員会再編のフォロー(中間報告)を行うこととされた。





日本を取り巻く世界情勢

— 第3回企業経営委員会（拡大委員会） —

第3回企業経営委員会拡大委員会（高木悦郎委員長）を10月31日(火)、オークスカナルパークホテル富山で開催し、会員94名が参加した。

今回は、(株)三井物産戦略研究所特別顧問の緋田順氏をお招きし、「日本を取り巻く世界情勢」と題し講演いただいた。

緋田氏は冒頭、JP Morgan Chase ダイモンCEO、キッシンジャー元国務長官、ゲイツ元国防長官など「第3次世界大戦」を懸念する識者の見解を紹介。「米国の抑止力が低下する中、米中対立・台湾リスク、ウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争が複雑な連鎖反応と共鳴を起し世界の安全保障システムはより不確実、不安定、流動的になっている」と切り出した。

主題である日本を取り巻く安全保障環境については、令和5年版防衛白書にも触れながら「自由、人権尊重、法の支配、民主主義といった普遍的な価値を共有せず、Checks & Balancesの効かない独裁者が統治し、日本にとっての唯一の同盟国である米国を敵視し、しかも核を保有する3つの国に囲まれ、それらが連携しつつある世界最悪の安全保障環境」という有識者の

指摘を紹介・解説の上で日本人の国防意識についても言及。続いて台湾有事、北朝鮮情勢、米中対立、中国リスク、大統領選が本格化する米国リスク、緊迫化する中東情勢について、政策当事者・専門家から得た情報、文献、記事等の膨大なデータを引用しつつ解説した。そして「有事が起こらなければそれに越したことはないが、有事を想定して備えておくのが企業経営者の務め。自社は有事にどう対応するのか、予めシナリオプランニングを行っておきたい」と語った。



緋田 順 氏

緋田氏が語った日本を取り巻く世界情勢の厳しさに、参加者一同真剣に聞き入り、講演後の質問も数多く、有事に対する備えの重要性を改めて認識すると共に、インド、東南アジア、豪州など日本企業にとっての戦略的意義・機会についても改めて思いを馳せることの出来た大変貴重な機会となった。

委員会の活動内容を共有

～ 第3回委員長連絡会議 ～

12月20日(水)、舟橋村のdadada_において、第3回委員長連絡会議（高林幸裕企画委員長）を開催し、委員長5名が参加した。同連絡会議は委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的に四半期に1回開催するものであり、今回は3回目の会議となった。

冒頭に高林委員長より挨拶の後、再編後の委員会のフォローについて説明。今年度の委員会の開催状況や課題への対応を説明した。その後、

各委員長から活動実績に加え、今後の活動予定について報告、

課題の共有を行い、どの委員会も活発な活動が行われていることが伺えた。





先進企業に学ぶ

～ 第4回企業経営委員会（県外視察） ～

11月14日(火)～15日(水)、企業経営委員会（高木悦郎委員長）は第4回委員会として、埼玉県・東京都の県外視察を実施し、30名の委員が参加した。

【1日目：埼玉→東京】

<トラスコ中山(株)プラネット埼玉>

1日目は、工具や工場用副資材を販売する卸売業者、トラスコ中山(株)の最大の物流センターであるプラネット埼玉を視察した。

同社の直吉取締役のご挨拶の後、物流改革

部 半田課長より会社概要とプラネット埼玉の説明を受けた。同社は「在庫は悪

ではなく、成長のエネルギー」と捉えており、「在庫出荷率（注文のうち何%を在庫から出荷できたか）」という独自のKPIを掲げている。在庫から出荷することで即納でき、顧客の利便性が高まるからだという。そのため、業界平均は8万在庫のところ、同社は7～8倍の59万点、400億円を超える在庫を保有している。また、「最速・最短・最良」な納品を実現するべく、最先端の物流機器を活用した物流DXに力を入れているとのこと。

続く見学では、Auto Store（専用コンテナを高密度に収納し、ロボットがコンテナの出し

入れを行う自動倉庫型ピッキングシステム）やButler（ロボットが可搬式の棚の下に潜り込ん



直吉取締役



AutoStore

で棚ごと商品をピッキングするシステム）といった様々なマテハン機器（物流業務を効率

化・自動化するために使用する機器）や、住所不定在庫管理システム（商品の容積・出荷頻度・什器容積を基にその商品容積に合った最適な保管場所を自動誘導する仕組み。入荷した商品のバーコードを読み取ると、約3秒で保管場所が示される）が導入された高密度・高効率な物流現場を視察した。最先端の物流機器・システムを前に参加者からの感嘆の声・質疑が止まず、3時間という視察時間が瞬く間に終了した。



<懇親会：YPSILON AOYAMA >

1日目の視察終了後は、YPSILON AOYAMAにて懇親会を開催。富山の食材を活かした本格イタリアンに一同舌鼓を打った。



【2日目：東京】

<楽天グループ(株)>

2日目の午前、楽天グループ(株)の本社である楽天クリムゾンハウスを訪れた。

まずは、社内視察ツアーとして、デスクの間に仕切りがない開放的な執務空間、社員に朝・昼・晩、無料で食事を提供するカフェテリア、毎週開催される全社員参加の「朝会」会場、従業員向けのフィットネスジム、ヘア・ネイル・鍼・マッサージサロンなど社内の様々な施設・設備を見学した。

同社は、従業員がオフィスにおいても家（ハウス）のように快適に過ごせ、一人ひとりが十分にパフォーマンスを発揮できるような環境を

整えたい、という思いから本社を「楽天クリームゾンハウス」と命名している。現在の二子玉川に移ったのは2015年。外国籍の社員も含め皆が働きやすい環境づくりに取り組んでいるとのこと。



フィットネスジム



朝会の会場

続いて、同社の創業メンバーで常務執行役員 チーフウェルビーイングオフィサー

(CWO) の小林正忠氏より「Nothing is impossible 不可能なことはない」と題しご講演いただいた。

小林氏は、仕事において達成感を味わえた社員が Well-being を感じているのではなく、Well-being を感じている社員が仕事で達成感を味わっているという同社の社内調査を紹介し、「成功し



小林 CWO

たから幸せになるのではなく、幸せだから、心身が良い状態だから成功している。社員が良いパフォーマンスを出すためには、その前提として社員の Well-being が大事になってくる。そのためには、働きやすい環境づくりも大切だが、それ以上に、社員一人一人が働きがいを感じられる職場にしていくことが大事だ」と語った。

続いて、小林氏は、同社が創業時から「イノベーションを通じて、人々と社会をエンパワーメントする」ことをミッションに掲げ、世間から「無理だ」と言われる様々なことに挑戦し、常識にとらわれずアイデアを重んじイノベーションで世界を変えることを実現させてきたと述べた。そして、実現できた背景には、高い目標を設定し、「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」。失敗してもいいから自



分自身・自分自身のサービス・自分の会社を信じて挑戦し続けるという同社のカルチャーがあると語った。

小林氏のユーモアを交えた熱い語り口に一同真剣に聞き入った。

＜マッカーサー記念室、第一生命保険(株)本社＞

2日目の午後は、第一生命保険(株)本社ビルにあるマッカーサー記念室を訪れた。



三上執行役員

マッカーサー記念室の見学に先立ち、同社東日本第二営業本部長執行役員の三上研氏のご挨拶の後、第一生命経済研究所



宮木首席研究員

取締役ライフデザイン研究部長主席研究員宮木由貴子氏にウェルビーイングについてご講話をいただいた。宮木氏は、健康・お金・つながりが人生

100年時代を支える3つの人生資産であり、自分がどうありたいか(to be)をまず考え、それから、何をするか(to do)を選択する(=健康であることを感じる行動をする・経済的に豊かさを感じる行動をする・つながりに価値を感じる行動をする)ことで、幸せを日常生活の中で感じることで、個人の Well-being が実現すると語った。

続いて、同社東日本法人営業部黒田部長・プロジェクトリーダーからマッカーサー記念室の解説を受けた後、マッカーサー記念室と、広い窓から皇居が望める同社の社員食堂を見学した。

マッカーサー記念室は、同社社長室として使われていた部屋で、日本の陸軍により



貴賓室にて

陸軍幹部の部屋となり、GHQ 接收後にマッカーサーの部屋となったもの。

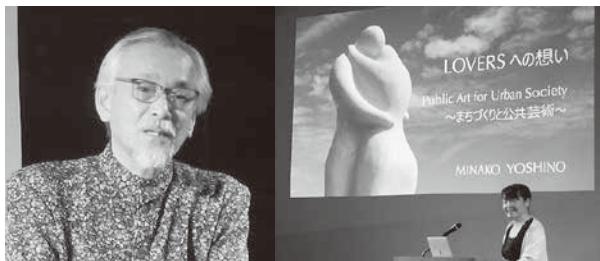
マッカーサーが使用していた当時のままの内装や調度品を前に、参加者は歴史に思いを馳せた。



100年後も残る価値を

— 第3回文化スポーツ委員会 —

第3回文化スポーツ委員会(武内孝憲委員長)を11月2日(金)、オックスカナルパークホテル富山で開催し、委員37名が参加した。今回は、武蔵野美術大学前学長の長澤忠徳氏と芸術家の吉野美奈子氏をお招きし、ご講演いただいた。長澤氏は、「デザインが描く文化都市・富山の未来-100年後も残る「価値」をつくる-」と題し、「VUCAの時代において、企業経営にとって重要なのは、問題解決の前に課題発見であり、未来社会の創造に貢献するために、創造的思考が不可欠である。目先の利益だけを追い



長澤 忠徳 氏

吉野 美奈子 氏

求めるのではなく、いい素材を使いメンテナンスをすることで100年後も残る価値をつくる



ラバーズの前にて

ける」と語った。吉野氏は、2020年3月に富山駅北口に設置された「ラバーズ」について、制作から設置までの経緯を映像や写真を交えて紹介し、「富山のラバーズは、イタリアで採掘された大理石を使用しており、ニューヨークのものとは輝きや醸し出す雰囲気が違う。富山の皆様に愛される場所になってほしい」と感謝を込めて語った。委員会終了後、講師二人を囲み、ラバーズの前で皆で記念撮影を行い、公共芸術の素晴らしさを再認識する日となった。



オール富山で取り組む舞台制作を見学

— 第4回文化スポーツ委員会 —

第4回文化スポーツ委員会(武内孝憲委員長)を、12月9日(土)、富山市芸術創造センターで開催、委員16名が参加した。武内委員長が「今回は、タニノクロウ氏の新作『ニューマドンナ』の制作現場を見学した後、1つの芸術文化活動が地域とどうつながって我々経済人としてどう関わられるかを考えたい」と挨拶。富山市民文化事業団の福岡氏から、会場の芸術創造センターについて説明を受けた後、隣接する旧呉羽幼稚園美術制作現場へ移動し作業の様子を見学した。続いて舞台稽古を観た後、タニノクロウ氏から現在の舞台制作の進捗状況等の説明を受けた。

次に、会議室において(株)電通PRコンサルティングの石井裕太氏



武内委員長

が、「これからの文化施設のあり方と関わり方について」と題し、「オール富山」で取り組むオーバード・ホールの取組み事例について説明をした後、いかに地域に文化を広めていくかといった課題について、参加者で意見交換をした。文化施設職員



美術制作の説明



稽古場

5名も参加し、互いの意見を聞く良い機会となった。普段見ることができない制作現場を見学し、参加者は芸術文化を起点とした新たな地域振興の取組みについて知見を広めた。



県教育委員会との意見交換会

～ 第2回教育問題委員会 ～

11月21日(火)、富山県民会館において、第2回教育問題委員会（土屋誠委員長）を開催、委員20名が参加した。委員会は第1部：第1回県教育委員会との意見交換会、第2部：今後の活動についての議論の2部構成。

第1部の意見交換会は、「働き方改革」をテーマとし、県教育委員会から中崎健志教育次長はじめ7名にご出席いただいた。まず、県教育委員会から教職員の働き方改革の取組みの説明があった後、当会から、とうざわ印刷工芸(株)（東澤善樹副委員長）及び日本海建興(株)（山田仁史委員）における取組みを紹介した。続く意見交換では、当会委員から「ミーティングをして互いの仕事の進捗状況を確認し、業務の平準化をしてはどうか」「教員が教えることに集中できるよう、学校にソーシャルワーカーを配置するなどの支援体制強化が必要ではないか」「部活動指導であれば当会に



土屋委員長



中崎教育次長



東澤副委員長

山田委員

協力できる企業がありそうだ」など、様々な意見が出された。

第2部では、1月に予定している2回目の県教育委員会との意見交換会の進め方について委員間で議論した。「人数を絞りぎっくばらんに意見交換すべき」「当会が貢献できそうなテーマに絞って深掘りしてはどうか」「教育制度は法令で細かく定められており、踏み込むのであれば制度の理解が不可欠」など、次回をより有意義な会とすべく盛んな議論がなされた。



ドイツ・オーストリア・デンマーク視察の成果を報告

～ 第10回海外教育事情視察報告会（第3回教育問題委員会）～

教育問題委員会（土屋誠委員長）は、12月14日(木)に ANA クラウンプラザホテル富山において第3回委員会として今年8月から9月にかけてドイツ・オーストリア・デンマークを訪問した第10回海外教育事情視察の報告会を開催した。

来賓として荻布佳子県教育長、番留幸雄教育参事・県立学校課長、山尾佳充小中学校課長をお招きし、第1回から視察に参加し今回も名誉団長を務めた中尾哲雄特別顧問と委員22名が参

加した。

冒頭、土屋委員長が「平成19年度から企画された10回にわたる海外教育事情視察は今回で終了する。これまで関わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。先生方には視察で得た経験と仲間を大切に、子どもたちの生きる力の醸成に役立てていただきたい」と挨拶した。

報告では、今回の団長を務めた富山県総合教育センターの宮原京子研究主事が視察の概要を

報告。ドイツ・デンマークの教育制度について紹介したほか、視察に参加し多くの人との交流を通じて様々なことを学ぶことができたと感謝を述べた。

次に、団員である8名の教員がそれぞれの気付きや帰国後の学校での実践状況について発表した。



宮原京子団長 中神紘士教諭 山崎知絵教諭



糸岡真理教諭 富岡政裕教諭 中嶋美奈子教諭



関口智也教諭 松岡倫代教諭 堀井祐志教諭

最後に来賓の番留教育参事と山尾課長それぞれから「これからの教員は幅広い視野と考え方を持つことが求められ、そのためには肌で感じ、直接目で見るのが最も有効。今回の視察は非常に有意義であったと思う」、「変化の激しい時代、教員は変化を前向きに捉え柔軟に学び続けねばならない。今回の視察では心震える瞬間がたくさんあったと思う。生徒や同僚にそれを伝えてほしい」と講評いただいた。

報告会終了後の懇親会では、はじめに中尾特別顧問が「先生方の発表は素晴らしかった。この視察プログラムを10回やってきて本当に良かった。視察で学んだことをベースにさら



中尾特別顧問

にレベルアップを図り、先生である前に人間として成長していただきたい」と挨拶した。続いて、荻布県教育長が「先生方の発表を聞き頼もしく思う。



荻布教育長

同友会の皆様のお力添えに感謝申し上げます。難しい時代だからこそ、異分野・異文化に触れて視野を広げることが大切。先生方にはこの経験をこれからの教育活動に活かしていただきたい」と述べ乾杯した。

その後、視察参加者全員が視察の思い出をスピーチし、会場は大いに盛り上がった。

最後に稲田担当役員が「先生方の素晴らしい発表を聞き、一緒に視察できて良かったと改めて感じている。視察で得たことをこれからの人生に活かしていただきたい」と締めの挨拶を行い閉会となった。





留学生と意見交換

— TOYAMA KATARAI CAFE —

人財活躍委員会(森 弘吉委員長)は11月20日(月)、TOYAMA KATARAI CAFE (トヤマ カタライ カフェ)を富山大学五福キャンパスにて開催し、会員の所属企業14社から経営者層17名、留学生のOB・OG 5名、富山大学などの留学生23名の参加があり、賑わいを見せた。

本事業は、県内在住留学生と企業経営者が、リラックスした雰囲気の中で直接語り合うことで、相互理解と新たな気づきが得られる場をつくり、留学生の就労支援や企業の海外高度人材の活用支援に繋げることを目的として2020年1月に第1回を実施。今回は2023年1月の実施に続いて3回目の開催となった。今回から富山大学以外の学校にも初めて声を掛け、富山県立大学、富山国際学院からも参加があった。

中国・台湾・ネパールなど12の国と地域の留学生が参加し、経営者と「富山の魅力・素晴らしさ」「日本の企業で働くことについて」「今頑張っていること」のテーマを中心に意見交換を行った。

西田副委員長の司会でイベントが始まり、森委員長が、「富山で生活している中で困った事や要望があれば、語り合うことで何かしら助け合えればと思うので、楽しく話し合いたい」と開会の挨拶を行ったのち、講演会に移った。講演会では留学生の先輩として(株)PCOより林 韋伶(リン ウェイリン)氏が登壇し、自身の現在の仕事内容や富山で働く



西田副委員長



森委員長

ことを選んだ理由、富山の魅力などを紹介した。また、留学生へのアドバイスとして仕事面で悲しいことや辛いことがあっても「自分にはもう一つお家(母国)がある」と思い力に変えて欲しいと一同に語りかけた。

続いて、(株)マイナビの黄 康銖(ファン カンス)氏が留学生のための就職活動についてレクチャーを行い、これから就職活動に向けて行うべきことや、日本式の採用活動、企業が留学生に期待することなどについて説明した。

意見交換会は、6つのグループに分かれ、経営者や留学生OB・OGを交え、3ラウンドに分けて座談会形式で実施。各々の自己紹介の後に経営者が質問しながら、学生の意見や想いを引き出し、大いに盛り上がった。

終わりに、富山大学の池田 真行副学長が閉会の挨拶を行い、会を締めくくった。

閉会後にも個別に留学生が残って意見交換する様子が見られ、この日は企業側、留学生側相方にとって実りのある一日となった。



林 韋伶氏



黄 康銖氏



池田 真行氏



意見交換会の様子



NEVER TOO LATE TO START

～ スケッチオーデション2023 ～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す挑戦者とメンターによる「仲間と学びあい支えあう」をコンセプトとして、2024年3月17日(日)の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットと、アイデアをブラッシュアップする過程を重視した珍しいイベントである。

プログラムの総合プロデューサーは昨年引

き続き富田欣和氏（関西学院大学 経営戦略研究科 教授）が務め、講師は過去大会参加者や決勝大会の審査員が務める予定である。

今年度は総勢79名（挑戦者60名、メンター19名）から申込があり、3月のコンテスト本番に向けて、学びを深めている。

11月、12月には Day 2（11月11日）、Day 3（12月2日）、Day 4（12月16日）を実施。また、12月4日の会員定例会には、スケッチオーデションの参加者4名から、バイオベンチャーの創業者である(株)ユージェナ代表取締役社長 出雲充氏の講演会の聴講希望があり、オブザーバーとして参加した。

● Day 2 [11月11日(土)]

開催2日目となったこの日の特別講義は講師としてアスリートブランドジャパン(株)代表取締役の根本真吾氏が登壇、「スポーツで世界とつながるスポーツ留学」をテーマに講義を行った。

起業家の思考として、インドの経営学者サラスバシー氏が提唱した「エフェクチュエーション」を挙げ、5つの原則「手中の鳥の原則」、「許容可能な損失の原則」、「クレイジーキルトの原則」、「レモネードの原則」、「パイロットの原則」について同社の事例になぞらえながらわかりやすく説明した。その中で、未知への挑戦をするために持つべきマインドセットとして、「どんどん仲間に頼り、働きかけよう。



根本 真吾 氏

失敗しても良い。ダメだったら方向転換すればよい」と訴えかけた。

また、過去から見てきた成功するアスリート達に見る共通することとして、「自分の天井を定めないこと」、「競技を純粋に好きであること」の2点を挙げ、これからの行動に当てはめてほしいと講義を締めくくった。

続いてメンターの寺井大輔氏より、メンターの活用の仕方に関する講義がなされた後、総合プロデューサーの富田氏が「プロトタイピング」と題して講義を行った。富田氏は、プロトタイピングは自分のやりたいことや、考えていることが本当にあっているかを確認することであると述べ、実際に行われているプロトタイピングを例示しながら説明した。その後、参加者がグループに分かれ、各々の構想をディスカッションし、イメージを深め合い、盛り上がりを見せた。

● Day 3 [12月2日(土)]

この日の特別講義にはスケッチオーデションの事務局にも参画し、決勝大会の審査員も務めるトレジャーデータ(株)取締役の堀内健后氏が登壇。自身の紹介と併せてスタートアップ、ベンチャーキャピタルの説明を行った。

スタートアップについて、「崖の上から飛び降りながら、飛行機をつくるようなものだ」と述べ、急速な成長をしないと生き残れない環境におかれた、勢いのある企業が多いので、一緒に組むことでイノベーションのジレンマを越え

て新しい市場を作ることが出来ると説いた。

また、家づくりのノウハウのない、データベースの会社であるトレジャーデータ(株)が、オフグリッドハウスのコンセプトを2,3か月で発表した事例に触れ、堀内氏が10年

間で大手企業からベンチャーの社長まで、1万5千枚の名刺を交換していたことで、コンセプ



堀内 健后 氏

トを考える際に声掛けする人が浮かび上がったとして、仲間づくりがいかに大切であるかを伝えた。また、重要な人に関わってもらう際には自己の利益だけを追い求めるのではないことはもちろん、ギブ&テイクの対等な関係となる前に、ギブ、ギブ、ギブ、ギブ、テイクくらいで関係を構築しておくことも重要であると訴えた。

続いて、ベンチャーキャピタルでの活動で投資対象に対する知見が少ないときには、実際に

投資対象のベンチャー企業と取引のある顧客の意見を聞くのが一番良い、と説き利用者や関係者の生の声に耳を傾け、取捨選択を行って欲しいとアドバイスした。

特別講義の後、メンターが挑戦者たちに自己紹介し、グループに分かれた。挑戦者たちは、現時点のビジネスプランをメンターに向け発表し、アドバイスを受けブラッシュアップした。

● Day 4 [12月16日(土)]

この日の特別講義の講師も決勝大会の審査員である knots associates (株)取締役の渡辺今日子氏が登壇、「NEVER TOO LATE TO START」と題し講演を行った。

まず、「成功の反対は失敗じゃなく、何もしないことだ」と述べ、後悔のないよう行動を起こした方がいいと訴えた。

また、10年程前に学び直しとして大学院に行ったことや、先日まで3ヶ月間ミラノヘデザインを



渡辺 今日子 氏

学びに行った自身の経験について話し、物事を始めるのに遅すぎるなどない、その時々に関係にとって大事な要素があり、アンテナを伸ばしておくことも重要であると説いた。

そして、自身の考えているサービス、プロダクトが「Make Sense」、理にかなっているかを考えて欲しいと講演を締めくくった。

講義の後には参加者が4つのグループに分かれ中間発表を実施し、挑戦者各自が現時点の思いを発表し合い、互いの資料や発表についてアドバイスを行った。

最後に、発表を通して印象的であった2名が選出され、全体発表会を行った。

SDGs



— 課外授業講師派遣 —

第9回 魚津市立西部中学校

11月2日(木)、伊東潤一郎氏(アイティオ(株)取締役社長)が魚津市立西部中学校にて、全校生徒462名と保護者42名を対象に「働く事と幸せに生きる事」と題して課外授業を行った。

伊東社長ははじめに、「なぜ勉強しないとダメなのか」と生徒に問いかけ、その答えとして「自分がなりたい職業を見つけたとき、勉強をしていないとその道に進む選択肢の幅が狭まる。勉強をする理由は、将来の職業選択の可能性を広げるためである」と話した。

そして、人生80年を1日24時間に例え、13～15歳の中学生は朝の4、5時にあたり、(20～60歳の時間に当たる)日中を一生懸命働くための準備の時間であると説いた。

また、会社で働くということは、人に喜んでもらうという顧客満足が大事であり、自分のための野心ではなく、志を持って世のため人のために頑張ることだと話した。

さらに、生きていくために必要な3つの力として、学力、体力(心も体も健康に)、人間力(優

しさ・逞しさ)を挙げ、その中でも人間力について、正しいことを正しいと言えることが大事であると述べた。

また、豊かな人間力をつくるためには、役を果たし、「気付き人間」にならねばならないと説き、「素直になる」「好奇心を持つ」「数多く経験する」ことが気付き人間になるために必要だと語った。

最後に、より豊かで幸せな人生を送るための教訓として「成功の反対は失敗ではなく何もしないこと＝必ず何かやってみる」「人生は与えたものが自分に返ってくる＝社会や人のためにしてあげる」「与えられた課題は先送りできるが、逃げ切ることにはできない＝必ずやる」とし、「経験をたくさんして、素敵なお大人になるよう期待している」とエールを送り講演を締めくくった。



第10回 片山学園中学校

11月8日(水)、稲葉伸一氏(株三四五建築研究所代表取締役)が片山学園中学校にて、3学年68名を対象に「楽しく生きる」と題して課外授業を行った。

稲葉代表ははじめに、「人の印象は2秒で決まる。挨拶ができて50点、そのうえで時間を守れば+40点の90点になる」と挨拶することの大切さを語った。

続いて、自身が手掛けた設計案件を紹介しながら建築士の仕事について説明した。建築士は、頭の中にあるイメージを見える形にする仕事であり、図面を描くことは仕事のごく一部でしかない。人が何を求めているかを見つける力=コミュニケーション能力が求められる。資格は『足の裏についたご飯粒』であり、取らないと気持ち悪いが取ったからといって食べていけないわけではないと語った。

次に、生徒たちへのアドバイスとして、①毎日自己ベストを更新すること：毎日1%進歩すれば、1年後には $1.01^{365} = 37.78$ になるが、毎日1%さばれば1年後には $0.99^{365} = 0.03$ になっ

てしまう。②チャレンジすること：苦手なことにチャレンジすることで自分の中に新しい引き出しができる。引き出しが沢山あると何かあった時に自分の助けになる。③

好奇心を持つこと：チャレンジするには好奇心が必要。好奇心を無くしたら死んでしまう。④人生にゴールはない：どこに行ったら終わりということはなく、ずっと途中経過。流されないよう漕ぎ続けることが大事、と述べた。

最後に、「人生辛いことはたくさんあるが、今が楽しいと決める。誰に何を言われても、どんなにしんどいことがあっても今が楽しいと決めて前に進めばいい。人生には限りがある。なりたい自分に早くなればそこからいろいろなものを楽しむことができる。なりたいものになるには何をすべきかを戦略的に考えてほしい」と熱く語り、授業を締めくくった。



第11回 小矢部市立蟹谷中学校

11月24日(金)、碓井一平氏(株就活ラジオ代表取締役)が小矢部市立蟹谷中学校にて、全校生徒89名と2・3年生の保護者約20名を対象に「どんな大人にも、社会にも負けない人間を目指して」と題して課外授業を行った。

碓井代表ははじめに、住む場所や通う学校、与えられる教材など、子どもは自身に関することの大部分が親や周囲の環境によって決定され、自分で選ぶことができず、いざ社会に出て働こうとするとき、既に経験値に大きな差が生まれており、決して「世の中は平等ではない」と説明した。そして、そのうえで「自分で選べなかったとしても自分でやるしかない。ここで必要なのはチャレンジ精神。失敗なんてないというマインドを持ち、あれこれ考えずにチャレンジしてみる。チャレンジすることで経験値を積み重ねることができる。やることそのものに価値があるから失敗なんて存在しない。他人のものさしで失敗だと言われても、自分のものさしで『成功への途中経過』であるなら他人のことは気にする必要はない」と語った。

次に、碓井代表はコップの中のノミの話を紹介した。コップにノミを入れて蓋をすると、最

初は蓋にぶつかるまで高く飛んでいたノミが、次第に蓋にぶつからないように低く飛ぶようになり、蓋を外しても蓋の高さまでしか飛ばなくなる。しかし、そこに高く飛べる新しいノミを一匹入れると、他のノミたちもまた元のように高く飛ぶようになるというもの。

このノミの話になぞらえながら、「人間も自分に蓋をして、自分の限界を決めてしまいがちだが、環境を変えることで、これまで苦手だと思いついていたことが苦手じゃないと気付くかもしれないし、意識していなかったことが他人には出来ない特別なことかもしれない。環境が人を育てる。環境は自分で変えることができる。そのためには自分の意思で行動し、努力することが重要。周りが応援してくれなくても、味方がいる環境に飛び込んでいけばいい。世界には必ず応援してくれる仲間がどこかに存在する」と熱く語り、授業を締めくくった。



第12回 富山県立富山高等支援学校

12月14日(木)、牧田和樹氏(株MGG取締役社長)が富山県立富山高等支援学校にて、全校生徒54名を対象に「働くこと」と題して課外授業を行った。

牧田社長はまず、レストランを例に、貨幣経済における「もの」と「お金」の循環について説明した。レストランは料理を提供し、客は代金を支払うが、料理(もの)と代金(お金)の価値が釣り合って初めて、ものとお金の循環が生じる。代金に見合わない料理を提供するレストランではこの循環が生じず潰れてしまう。また、この循環はレストランの内部でも生じており、社員の労働とその対価としてレストランから支払われる給料が釣り合って循環している。より広い視点で見ると、社員がおいしい料理を提供することで、客がレストランに代金を支払い、代金を受け取ったレストランが社員に給料を支払うという大きな循環が成り立っている。つまりは、社員はレストランから給料をもらうために働くのではなく、レストランに来る客に

おいしい料理を提供するために働くのだと説いた。

そして、「漫然と仕事をするのではなく、客の役に立つという目的を持って働くことが大切。目的を持つことでそれに向かって努力するようになり、努力することで自身の成長に繋がり、それが評価されて給料になって自分に返ってくる」と目的を持って働くことの大切さを強調し、授業を締めくくった。

授業の後の質疑の時間には、生徒から複数の質問が寄せられた。「上手な言葉遣いをするにはどうしたらよいか」という質問に対しては、「本を読むなどして自分の中でたくさんの言葉・表現のストックを持ち、それを自分の言葉として使えるように努力するとよい」とアドバイスした。



第13回 富山市立速星中学校

12月20日(水)、京田憲明氏(株富山市民プラザ代表取締役)が富山市立速星中学校にて、1学年312名を対象に「人生で大切なこと～豊かに生きる～」と題して課外授業を行った。

京田代表ははじめに、自己紹介として自身の半生を振り返った。高校時代の環境庁新設をきっかけにこれからは環境の時代になると考え、公園緑地・造園学の道を志した。大学卒業後も造園に携わりたいと当時造園職を募集していた富山市に就職。ところが採用後に配属されたのは造園ではなく花や野菜の研究を行う部署であった。なぜこの配属なのかと悩んだが、植物が好きだったので仕事をしているうちに楽しくなると述べた。その後、5年目によく造園の仕事に携わるようになった。大変な仕事が多く、例えば茶庭を作る仕事は茶道の勉強をしなければならぬなど苦労もしたが、その分新しいことを学べて、面白い経験になったと語った。

次に、生徒たちに働くことの目的は何かと問いかけた。自身の経験から、収入を得ることも大事だが、働くことで人の役に立つ充実感や困難な仕事を成し遂げた達成感などが得られ「働くことは楽しい」と思えるようにな

ったと述べた。

続いて、社会に出るときに必要な力である「社会人基礎力」(基礎学力・専門知識を活かす力)は人間性や基本的な生活習慣を土台としており、この土台を身に付けるには「豊かに生きる」ことが大切であると説いた。

そして、豊かに生きるために人生で大切なこととして、①話を聞くこと②やたら悩まないこと③誇りを持つこと④信頼関係を築くこと⑤チャレンジすること⑥夢を持つこと⑦内なる才能に気付くこと⑧頑張った数を数えること⑨辛い時こそ諦めないこと⑩超えられない壁はないと信じること⑪うまくいかなくていいと知ること、の11項目あり、頭文字を取ると「はやほしちゅうがっこう」になると紹介した。

最後に、「今のこの一瞬は今しかない。11の大切なことを意識すると、次につながり豊かな人生を送る大人になれる」とアドバイスし授業を締めくくった。



「グローバル社会に必要な人財とは」

大橋聡司氏が富山県高等学校教頭会研究発表会で講演



11月9日(木)、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が富山県高等学校教頭会研究発表会において、県内の高等学校教頭96名を対象に「グローバル社会に必要な人財とは《ローカルな会社社長の視点から》」と題して講演を行った。

大橋社長は、冒頭、「教育の衰退は社会の衰退につながる。教師のなり手不足が問題となっているが、教育が衰退しないためには、教師が憧れの職業でなければならず、多忙化する学校現場を変えていかねばならない」と述べた。

次に、自社について紹介した。黒部川の治水事業は、若者に敬遠されがちな山での泊りがけの仕事であるため、若者に選ばれる会社となるような様々な取組みを行っている。SDGsを経営の指針とすること、ICTによる技術革新、健康経営・ダイバーシティの推進、DX化による業務改善など、新しいことにチャレンジしており、「『やるかやらないか』ではなく、やってみて改善すべき。やってできないことはない」と挑戦することの大切さを強調した。

続いて、グローバル化が進み、日本の若者が世界の若者と共に生きる時代となる中、先進国のうち日本だけが賃金上昇しておらず、労働生産性が低いことをデータを用いて説明したうえで、「こ

の生産性の差は教育制度の違いにある」と各国の教育制度を紹介しながら語った。

さらに、学校の管理職・教頭である受講者にリーダーシップについて説いた。「リーダーシップは資質やカリスマ性とは関係がなく、『仕事』である」とするP.F.ドラッカーのリーダーシップ論を引用し、「リーダーたる皆さんは、仕事としてリーダーシップを発揮しなければならない。リーダーシップには、ビジョン型、コーチ型など様々な型がある。理想は、場面やメンバーに応じて様々に使い分けることだが、まずは自分に合う型を見つけてリーダーシップを発揮してほしい」と述べた。

最後に、高校生の社会参加に関する意識調査で「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」という問いに、肯定的に答えた生徒が米・中・韓は6割を超えているのに対し、日本は3割に留まることを紹介。「多くの高校生が『自分は社会を変えられる』と思えるようになる国になってほしい」と教育への期待を語り講演を締めくくった。



「ミドルリーダーとしての自覚、役割～働きやすい環境づくり～」

稲田祐治氏が富山県中堅教諭等資質向上研修で講演

11月22日(木)、稲田祐治氏(株)ミライノ交通観光ラボ代表取締役)が、富山県中堅教諭等資質向上研修において、11年目の教員192名を対象に、「ミドルリーダーとしての自覚、役割～働きやすい環境づくり～」と題して講演を行った。

稲田代表ははじめに「これからの学校は、教員の資質向上と優秀な人材(教員)の確保が求められており、そのためには、教員が自己研鑽する時間や、公私共に充実した生活を送る余裕を持つことが必要であるが、現実には学校現場が多忙で実現できていない。教員を忙しさから解放しなければならない。」と課題提起した。

次に、これらの課題を解決するためには、①教員が授業や学級運営を中心とした子どもたちへの教育に専念できるような体制づくり、②学校教育活動が校長や教頭による全体統括の下、組織としての一体的な活動として行われること、③一部学校業務の外部委託などを検討すること、が必要

であるとし、このためには、今回の研修受講者である中堅教諭、ミドルリーダーの果たす役割が大きいと説いた。

そして、教員の年齢構成がいびつで、若い教員と年配の教員との間にギャップが生じている中、ミドルリーダーが、①メンター：同僚教職員の学びを支援、②マネジャー：課題解決に向けた協働体制の構築、③リーダー：経営ビジョンの共有化と実践化、の3つの役割を果たすことで、世代間の意思疎通やチーム化による学校運営に繋がると語った。

続いて、学校の労務管理について、文部科学省所管の公立学校と厚生労働省所管の私立学校を対比させながら問題点を指摘したうえで、学校の働き方改革推進のためには、国、教育委員会と学校、そして家庭の理解・支援・協力が不可欠であると述べた。

最後に、「ミドルリーダーである皆さんが中心となって、働きやすい環境づくりに取り組み、教職を魅力ある仕事にしていましょ」とエールを送り講演を締めくくった。



レイテ島で涙?!

池田 治郎

(富山いすゞ自動車株式会社 代表取締役)

7月のいすゞ自動車販売店協会の理事会。「それでは、タクロバンの受け入れ体制を考えて、販売店協会からは、正副のお三方と専務理事の4名にご出席頂くということで。」「ええええっ?!」かくして、いすゞ自動車が支援を続けるフィリピンのレイテ島にある自動車整備専門学校の15周年記念式典への参加が決まった。

ディーパアジアか。トラブルだらけの出張の記憶が蘇る。もう少し若い時分は面白がってもいたが、50代半ばともなると少々キツイ。が、お役目ならば致し方ない。11月、羽田を発ち、マニラで乗り継いでレイテ島のタクロバン空港に到着。奇跡的に飛行機は時間通りに飛んだ。ホテルのシャワーもお湯が出た。部屋の壁にはヤモリが数匹。まあ上々の滑り出した。そして目的のTESDAという技術専門学校の中の自動車整備学校の卒業式と、その15周年記念式典に出席した。

そこでこの自動車整備学校が、貧困層の子供達を救済する為のプログラムであることを知った。2年間のカリキュラムを終えると、自動車整備士の最上級の国家資格を取得できる。その間の費用は全ていすゞ持ち。卒業生は国内外の自動車ディーラーに就職したり、自分で自動車整備工場の経営者になったりする。また、成績優秀な数名は、更に高度な教育とトレーニングを経て、技能実習生として日本に来たり、自分が学んだ自動車整備学校の職員になったりする。

一学年20名。初年度は4,000人の応募があったらしい。現在でも800名程から選抜される狭き門だ。このプログラムに参加出来れば貧困から抜け出せる。本当に人生が変わる。それだけに、生徒達の眼差しは真剣だ。

卒業式。2年間懸命に勉強に打ち込んだ達成感と自信に卒業生の表情が輝いている。この日、家族一人が卒業式に出席することが出来る。生徒達はこの2年で小綺麗に垢抜けているが、家族の身なりからは貧しさが見て取れる。生徒はその家族と共に登壇し、卒業証書を一緒に受け取る。このあたりから目頭が熱くなってきた。

卒業式の最後、卒業生が歌とダンスで感謝の意を表してくれた。1曲目がISUZUの例の唄、2曲目が、いきものがかりの『ありがとう』。「ありがとうって伝えたくて～、あなたに～♪」卒業生達が泣きながら唄っている。歌い終わる頃には卒業生同士抱き合う者、先生や家族のもとに行き、抱き合っ泣いている者。ここらでこちらの涙腺は完全に崩壊。日本から行ったオジサン達は、漏れなく号泣させられてしまった。

SDGsが一般的になる前の15年前から、いすゞ自動車がこのようなプログラムを運営していたのは驚きだ。とても素晴らしいプログラムだと思うが、しかし、いすゞ内にも反対派はいて、立ち消えそうになった時もあったと聞く。今回泣かされた我々は、本プロジェクトを守っていく為に支援しなければと考えている。支援者がいて継続してきたところもあると思うが、この灯がギリギリのところでは消えず残ったのは、最初にこのプロジェクトを立ち上げた経営トップの強烈な想いがあったからだと感じた。

アジアの片田舎で柄にもなく泣いてしまった私は、また柄にもなく、事業が後々まで続くのに必要なのは経営トップのPassionだよな、なんて思ってしまったタクロバン ミッションだった。

(次号は(株)ホクタテ代表取締役の上願宏幸 様です。)

活動報告

11月1日～12月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
12月4日(月) 16:30～20:40 ANAクラウンプラザ ホテル富山	海外視察報告会・会員定例会(企業経営委員会主管)・年末懇親会 講師:(株)ユージェナ 代表取締役社長 出雲 充 氏 演題:「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」	約200名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
11月2日(木) 17:00～20:15 オークスカナルパーク ホテル富山	第3回文化スポーツ 委員会	講師:武蔵野美術大学前学長 長澤 忠徳 氏 演題:「デザインが描く文化都市・富 山の未来-100年後も残る『価 値』をつくる-」 講師:彫刻家・アーティスト 吉野 美奈子 氏 演題:「ラバーズ制作への思い~まち づくりと公共芸術について」	38名
11月8日(水) 11:30～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第4回正副委員長会議	・景気定点観測アンケートについて ・経営道場、来年度の活動について	7名
11月8日(水) 16:30～18:00 dadada_	第1回企画委員会	・委員会再編内容のフォロー	4名
11月13日(月) 11:00～12:30 事務局会議室	人財活躍委員会 第3回正副委員長会議	・今年度事業の進捗状況と課題等の洗 い出しや廃止事業の検討について ・次年度事業について ・外国人受入れシンポジウムについて ・第2回人財活躍委員会実施について	11名
11月14日(火)～15日(水) 埼玉県・東京都	第4回企業経営委員会 (県外視察)	視察先:トラスコ中山(株)幸手物流セン ター、楽天グループ(株)、マッ カーサー記念室	30名
11月20日(月) 18:30～20:30 富山大学五福キャンパス	人財活躍委員会	TOYAMA KATARAI CAFE	17名
11月21日(火) 11:30～13:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第4回正副委員長会議	・活動実績と今後の予定 ・第4・5回委員会について	5名
11月21日(火) 16:15～19:30 富山県民会館	第2回教育問題委員会	・第1回県教育委員会との意見交換会 ・活動報告及び今後の事業についての 意見交換	委員20名 県教委7名
12月9日(土) 15:00～19:30 富山市民芸術創造 センター	第4回文化スポーツ 委員会	・タニノクロウ×オール富山「ニュー マドンナ」の舞台美術制作見学、稽 古場見学 ・「これからの文化施設のあり方と関 わり方について」意見交換	16名
12月12日(火) 17:00～19:30 梨花苑	地域創生委員会 第4回正副委員長会議	・富山のまちづくりに関する意見書に ついて ・第3回地域創生委員会について	9名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
12月14日(木) 18:00~20:40 ANA クラウンプラザ ホテル富山	第3回教育問題委員会	・第10回海外教育事情視察報告会	22名
12月20日(水) 16:30~20:00 dadada_	企画委員会	第3回委員長連絡会議	5名

○課外授業講師派遣・教育講演講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師
11月2日(木)	魚津市立西部中学校	全学年462名	伊東 潤一郎 氏
11月8日(水)	片山学園中学校	3学年68名	稲葉 伸一 氏
11月9日(木)	富山県高等学校教頭会研究発表会	高等学校教頭96名	大橋 聡司 氏
11月22日(水)	富山県中堅教諭等資質向上研修	11年目教諭192名	稲田 祐治 氏
11月24日(金)	小矢部市立蟹谷中学校	全学年89名	碓井 一平 氏
12月14日(木)	富山県立富山高等支援学校	全学年54名	牧田 和樹 氏
12月20日(水)	富山市立速星中学校	1学年312名	京田 憲明 氏

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月6日(月)	2023年度「代表幹事円卓会議」	奈良県奈良市	麦野代表幹事 牧田代表幹事

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月3日(金)	富山県・江原特別自治道交流30周年記念 交流会	オークスカナル パークホテル富山	麦野代表幹事
11月5日(日)	富山マラソン2023 開会式	高岡市役所前	麦野代表幹事
11月7日(火)	富山空港コンセッションセミナー	ホテルグランテラス 富山	麦野代表幹事
11月8日(水)	北陸デスティネーションキャンペーン 全国宣伝販売促進会議	福井県産業会館	麦野代表幹事
11月9日(木)	令和5年度日沿議連総会、日本海国土軸・ 環日本海交流推進大会 特別講演会	明治記念館	麦野代表幹事 牧田代表幹事
11月13日(月)	第10回関西・北陸交流会	ホテルフジタ福井	麦野代表幹事
12月15日(金)	共生の未来・富山シンポジウム	富山県民会館	麦野代表幹事

事務局からのお知らせ

福田 正美 氏 (事務局員) は、11月30日をもって定年退職
いたしました。

勤続20年9か月にわたり、富山経済同友会事務局を支えて
いただきました。ありがとうございました。



福田 正美 氏 (左)



富山県観光公式サイト

“とやま観光ナビ”で公開！

富山の経済人が本気で考えて実際に試してみた！観光コース

2020～2022年度にかけて地域創生委員会が制作した『富山の経済人が本気で考えて実際に試してみた！とやま観光コース』シリーズ（観光ウェブサイト）。これまで当会ホームページで公開していたが、今回、富山県観光公式サイト“とやま観光ナビ”でも公開された。

“とやま観光ナビ”は、富山の四季折々の人気観光スポットや旅のモデルコースなど、富山の魅力あふれる多様な観光情報が満載で、県外からの来訪者はもとより県内在住者にも高い発信力を誇る。

会員自らがコースの選定とフィールドワークを実施し制作した当会の観光ウェブサイトは、富山の経済人おすすめの観光コースを豊富に紹介。“とやま観光ナビ”での公開により、より幅広く当会の取組や富山の魅力について知ってもらうことができ、更なる地域活性化への貢献が期待される。



“とやま観光ナビ”特集ページより

富山県観光公式サイト とやま観光ナビ

富山の経済人が本気で考えて実際に試してみた！とやま観光コース

<https://www.info-toyama.com/stories/toyama-ichinichi-kanko>



外国人との共生新時代 ～ 共生の未来・富山シンポジウム開催～

富山県共生の未来実行委員会、(公財)日本国際交流センター(JCIE)、(独)国際協力機構北陸センター(JICA北陸)が主催する共生の未来・富山シンポジウム、「外国人との共生新時代」が12月15日(金)に富山県民会館で開催された。実行委員会の委員長には麦野代表幹事が就任し、2部構成で行われた。



麦野代表幹事

第1部では「外国人の受入れ新時代の展望と課題」と題し、JCIE執行理事の毛受敏浩氏が基調講演を行った。その中で、足元では減少する日本人の数の1/3の外国人が毎年増加することで人口減少が抑えられており、将来的には人口の10%を外国人が占めることになり、外国人の受入れステージが変わってきていると述べた。また、多文化共生に向けて地域社会でも外国人への日本語教育の充実、心のグローバル化が必要であると訴えたのち、

外国人受入れと地域社会についてパネルディスカッションを行った。



パネルディスカッション

第2部ではJICA理事長補佐の宍戸健一氏が「外国人受入れと地域経済」と題し基調講演を行い、外国人労働者の受入れで選ばれる国となるためには、外国人の人権保護、キャリアパス、共生の実現が必要と訴えかけ、JICAとJP-MIRAIの取組を説明した。その後、外国人受入れと地域経済をテーマにパネルディスカッションを行い、パネリストとして人財活躍委員会の森委員長、西能副委員長が登壇。各々の取組として森委員長からは、外国人留学生との意見交換の場の「TOYAMA KATARAI CAFE」を紹介した。

約110名が参加する注目度の高いイベントとなり、盛会のうちに終了した。

2024年前半の景気見通しは「緩やかに拡大」？

企業経営委員会（高木悦郎委員長）は、昨年12月に「第28回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2024年前半の景気見通しや各社の業績予想、継続的な賃上げ、生成AIの活用について166社（回答率39.3%）から回答が寄せられた。

主 な 項 目

<p>◆現在の富山の景気動向は？</p> <p>緩やかに拡大している 42%</p> <p>横ばい状態が続いている 49%</p> <p>緩やかに後退している 8%</p>	<p>◆2024年前半（1～6月）の景気見通しは？</p> <p>緩やかに拡大する 45%</p> <p>横ばい状態が続く 44%</p> <p>緩やかに後退する 9%</p>
<p>◆2023年度の設備投資（前年度比）は？</p> <p>増額 36%</p> <p>前年度並み 49%</p> <p>減額 15%</p>	<p>◆現状の雇用人員は？</p> <p>不足している 68%</p> <p>適正である 28%</p> <p>過剰である 4%</p>
<p>◆2024年度の賃上げは？</p> <p>実施予定 57%</p> <p>実施予定はない 5%</p> <p>まだ決めていない 36%</p>	<p>◆生成AIの活用状況は？</p> <p>業務の効率化に活用している 23%</p> <p>現在は活用していないが活用に向け検討中 42%</p> <p>当面活用する予定はない 32%</p>

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
1月31日(水)	全会員	1月会員定例会 講師：さいたま市立大宮国際中等教育学校 校長 関田 晃 氏	オークスカナルパーク ホテル富山
3月13日(水)	幹事以上	3月幹事会	ANAクラウンプラザ ホテル富山
3月13日(水)	全会員	3月会員定例会 講師：レヴォ オーナーシェフ 谷口 英司 氏	ANAクラウンプラザ ホテル富山
4月16日(火)	幹事以上	4月幹事会	富山電気ビルディング
4月18日(木) ～19日(金)	全会員	第36回全国経済同友会セミナー (福井経済同友会主管)	福井市内
4月24日(水)	全会員	2024年度定時総会・懇親会	ANAクラウンプラザ ホテル富山

〔表紙写真〕

第4回企業経営委員会（県外視察）

11月14日(火)～15日(水)首都圏の先進企業視察を実施。

写真は、トラスコ中山(株)の最大の物流センターであるプラネット埼玉（埼玉県幸手市）。最先端の機器を活用した物流倉庫を視察しようという年間400組が訪れるという。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/

わが青春の1枚



1971年9月5日 第14回中部日本吹奏楽コンクール〈富山県大会〉
(前列中央が筆者)



夏の甲子園での吹奏楽部による応援演奏風景



苦手にチャレンジ!!

北日本印刷株式会社 代表取締役

川口 秀春

青春を振り返ると、高校（高岡商業高校）入学と同時に一大決心をして吹奏楽部（ほとんどが経験者）に入部をした高校生時代です。小・中学校では音楽（特に楽器演奏）が苦手で成績も芳しくありませんでした。

それじゃあ何故、どうして入部したのと思った方が多いと思いますが、一度の人生で苦手をそのままにしているのは悔いが残ると考えたからです。高校三年間の通学は通常自転車（雨の日も風の日も）、冬場は歩きやバスを乗り継いで通学し部活をしていました。部活が無かったのは年末年始位だったと記憶しています。高校二年時には「大阪万博」があり親からは「見に行くぞ」と誘われましたが断り部活に専念していました。ちなみに楽器はクラリネットですが、良い音色を吹く事とロングトーンをする為には「腹式呼吸が大事だよ」と言われ毎日、練習を続けていました。高校三年時には合奏前のチューニング（一般的に高校等の吹奏楽ではクラリネットの基準音 = Bb に合わせる）を任されていました。

部活は大変厳しい環境（夏季キャンプ・発表会に向けた強化練習、夏の甲子園での応援など）ではありましたが、富山県代表（大編成の部）として名古屋市吹上ホールで開催された中部日本吹奏楽コンクールに出場し、優秀賞に輝いたことは部員全員のリズムとハーモニー（チームワーク）で勝ち取った大きな喜びと達成感を味わうことが出来ました。また、部活を通して顧問の

先生、同学年との関係はもちろん先輩・後輩を含めての上下関係等や規律も叩き込まれました。しかし、人間性に満ちた関係が醸し出されたことと感謝のもと部活を終えることが出来ました。

その間にも、食べ物に関しても苦手がありましたが今はほとんどゼロに近いです。会社に入社してからは、草野球・山登り・スキー・スケート・ダンスなど様々なジャンル（特にスポーツ系）にチャレンジしました。青春の思い出ではありませんが会社の野球部監督時代に目標に向かって心が一つになり、業界の野球大会で初優勝したことで改めてチームワークや仲間との関わり合う姿勢が必要であると感じましたが、楽しい思い出でばかりでなく辛い思い出も甦ってきます。当然のことながら仕事（飲み会?!）にも。

業界は厳しい環境の中にいますが、全てにおいて常に体感・体験や経験をし、前向きに向き合うことにより人生も会社の成長にも繋がっていくのだと思います。無関心や怖がっているのは苦手や悔いが残るだけであり、たくさんの方にチャレンジをして得るものを増やしていきたいです。

最後に、私の好きなことわざは米沢藩藩主上杉鷹山の「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も」です。これからもチャレンジ精神を持ってアナログの良さと、デジタル分野を有効に活用しながら人間らしさを大切に過ごしていければと考えています。